

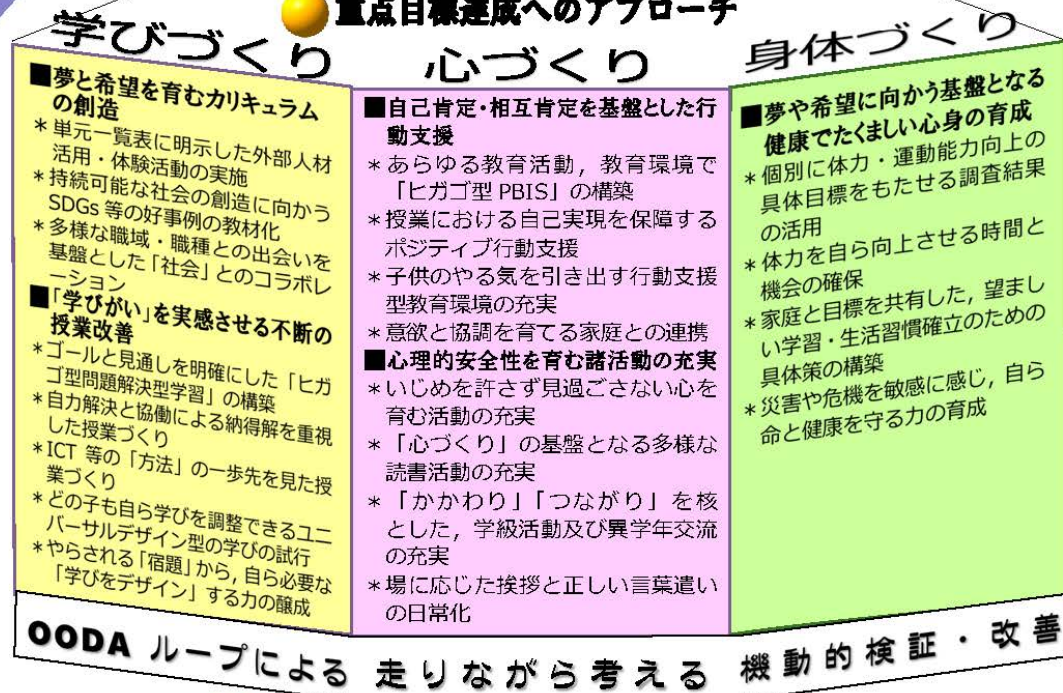
● 学校の教育目標

日本の力となる子ども 教育理念
かしこさ ゆたかさ たくましさ

● 重点目標

学びから 自他のよさを感じ、夢や希望に向かう子供を育てる

● 重点目標達成へのアプローチ



● 学年・分掌・チームにおける重点

◇学年・学級 *夢や希望、なりたい自分を見付け、見通しをもつための多様な人材のマス活用と体験の重視等によるコラボレーションの確立 *いじめを許さず、互いに見通しをしない学級風土の確立 *心理的安全性を育む、ポジティブな言葉掛けにあふれた楽しい教室づくり *自他のよさに気づき、異学年交流 *10年先を見据えた資質能力の育成を目指す不断の授業改善 *OODAループを基盤としたヒガゴ型学校経営案による不断の経営改善	◆授業改善研究コアチーム *知的な楽しさに満ちた学びがよいある授業の交流 *単元や題材のまとまりのゴールと、そこに向かうための見通しを明確にした「ヒガゴ型問題解決型学習」の構築 *対話的な学びを成立させるための、必然的な「協働」場面の設定 *主体的・対話的に深い学びへ向かう授業改善へのアプローチとしてのUDLの研究 *コアチームによる授業改善を基盤とした「ヒガゴ型問題解決型学習」の共有(どの教室でもどの先生も)
◇教務部 □年度の重点教育目標の実現を目指す教育課程の編成・実証・評価・改善 □やらされる「宿題」から、抑え下げる内容や必要と思ふ内容等について「学びをデザイン」する力の醸成 □外部人材活用・体験活動の単元一覧表に明示することによるつながりやすさの確保 □標準時数のミニマム確保を基盤とした、柔軟で機動的な時数の不断の見直し	◇生徒指導部 □発達支援的な生徒指導によるいじめが生まれにくい学級風土の確立 □認め合う風土を学校全体で醸成する児童会活動の企画・実施 □生命や健康を第一としながら、あるべき自分に向けた「期待行動」を示すヒガゴ型PBISベースの環境づくり □「あ」がくるくらい「つ」も「き」に「つ」たわえるように、登下校や放課後、仲間や地域の人々に積極的に挨拶できる子の育成
◇環境整備部 □地域・保護者に向けて分かりやすい情報発信のための必要な機器や環境整備 □学校改善に資する、人・モノ・ことへの学校配当予算の選択と集中 □子供たちが安全にのびのびと過ごしやすく、地域にとって心よりどころとなるような校舎内外の環境整備 ◆業務改善・学校DXコアチーム *全員の回数や時間の縮減徹底と、ICTを活用した情報共有や協働の推進 *ペーパーレス化の積極推進 *小さなことも大きなことも見逃さない、「動きがよい」を高める「動き方」の見直し *「授業改善」に注力できる環境づくりを徹底するための「目的」、ICTを活用した校務DX等による働き方の改善「手段」 *生成AIの活用による校務DXの可能性の調査・研究	◇保健体育部 □全校体力づくり企画の中で夢をはぐくむ異学年交流 □達成感と意欲の向上をさせる体力テストや全校体力づくりの結果の見え化 □体力向上に向けた常設体力づくりコーナーの設置 □家庭との目標を共有した、ICT活用による生活リズム改善の取組 ◇文化部 □心を新す朝等の読書時間確保の徹底 □児童相互の読み聞かせ体験企画等を通じた読書活動の活性化策の実施 □全校合唱の発表機会確保、設定によるつどいの積極的動機付け □学習発表会における夢や憧れを育む、効果的な相互鑑賞機会の確保

● 重点目標達成の基盤

- 目標を共有し、働きがいに満ちた教職員による協働
 - *働き方の再構築
 - *共有したビジョンに向かって、手段を考える教職員の協働
 - *支え合う職場環境づくり
- 夢や希望を育む地域・社会とのコラボレーション
 - *外部講師等の外部教育資源の積極開発
 - *より広いキャリア教育マインドの共有
- 子供の心理的安全性を育む家庭との連携
 - *真摯な対応(密に、褒めて、その先を共有する)を基盤とした相互の信頼関係の構築